

薄井 良子 (関西学院大学日本語教育センター)
内藤 真理子 (関西学院大学日本語教育センター)
長谷川 哲子 (関西学院大学経済学部)

1. 日本語Ⅰ・日本語Ⅱの到達目標

大学におけるアカデミックな活動において、必要な日本語能力、およびコミュニケーション能力を習得する。日本語Ⅰ・日本語Ⅱでは、初年次のうちに身につけておきたい基本的なスキルを重点的に扱う。

2. 2014年度の授業内容

週2回の授業のうち、水曜日は「読む・書く」活動を、金曜日は「話す・聞く」活動を中心として、それぞれアカデミック・ジャパニーズとして必要な能力の習得をめざした授業を行った。

2. 1 日本語Ⅰ

・水曜4限

日本語Ⅰ・水では、2013年度と同様に論文を正確に読み解くこと、論文、レポートに必要な表現を身につけること、論説文を簡潔・的確にまとめた要約文が書けるようになること、説得力のある意見文が書けるようになることを目標とした。

「大学入学直後の日本語を残す」という意味で「大学4年間にやりたいこと」というテーマで、「かけはし」(留学生文集)に1000字程度の作文を4月に執筆した。

『日本の教育格差』(橘木俊詔、岩波新書)を読解テキストとし、1章と終章について教師が提供した「読解予習プリント」をもとに事前に各自で読解をし、授業でクラスメートと内容の共有と確認を行い、内容の正確な理解を深めた。論文、レポートに必要な表現は、『論文・レポートの基本』(石黒圭、日本実業社)の第二部をもとにした講義で表現の習得を目指した。要約文は授業中に執筆し、100字の要約文を経て、200字の要約文に取り組んだ。意見文は「十字モデル」でまず構成を確実にし、宿題として3つのテーマについて400字の意見文を執筆した。また「ルーブリック」を用い、学生相互の評価活動も行った。

・金曜2限

授業で行われるプレゼンテーション活動に慣れるため、a)新聞記事を読解してその内容を発表する、b)自分たちで調べた内容をポスターにまとめ、ポスターセッションを行う、という二つの活動を中心に授業を構成した。新聞記事による発表は個人によるもので、人前でまとめた内容をわかりやすく話せるようになることを重視した。ポスターセッション、またセッションに向けた話し合いやポスター作成はグループ作業とし、他の学生と協働して円滑に作業を進めることができるようになることも目標とした。ポスターセッションは、全クラス合同で実施し、ふだん一緒に活動する

ことのない他のクラスとの交流をめざした。

2. 2 日本語Ⅱ

・水曜4限

本授業の目標は、1) レポートを書く手順と必要な表現を身につけること、2) 読み手にとってわかりやすい構成でレポートが書けるようになること、3) 与えられたテーマで資料をもとにして短いレポート(2500字程度)が書けるようになることの三点である。本授業では、1学期を通して1本のレポートを書き進めさせ、教員からの誤りの指摘をもとに自己修正をさせることで、推敲能力の涵養を目指した。

・金曜2限

金曜の授業では、グループディスカッションを円滑に進められることを大きな目標として、1) ディスカッションのテーマに即して適切な資料を検索し、自分の主張を組み立てることができる、2) 聞き手に配慮した話し方ができる、3) ディスカッションの内容や進め方を客観的に振り返ることができる、という3点をめざして授業を行った。ディスカッションは、クラス内だけでなく、全クラスのメンバーを入れ替えて、他のクラスの学生とグループを構成して、初対面の学生どうしであっても、ディスカッションをうまく進められるようになることを目的とした。

3. 日本語Ⅰ・日本語Ⅱの成果と課題

3. 1 日本語Ⅰ

水曜の授業では、LUNA(教授者-学習者支援システム)を積極的に活用することで、教師側は学生の事前学習への取り組み状況が把握できた。「十字モデル」(2013年度日本語Ⅱで導入)により、意見文の構成を可視化したこと、「ルーブリック」を用い、評価の観点を理解したこと、クラスメートの意見文を「ルーブリック」をもとに評価したことなどで、アカデミックな活動に必要な日本語能力を自己評価する意識が学生に芽生えたと思われる。

金曜の授業では、個人発表やポスターセッションを通じて、人前で話すことへの苦手意識を克服し、もっとうまく発表できるようになりたいという意識を持つ学生が増えた。ポスターセッションに関しては、準備段階や当日の時間配分には再考の余地が見られた。

3. 2 日本語Ⅱ

水曜の授業では、学期を通して1本のレポートを書き進めるという方式をとったため、課題の提出が滞ると、他の学生に追いつけないと諦めてしまい、その後課題に対して投げやりな態度になる学生がいた。このような学生が課題への意欲を取り戻すための指導をどう行うか考える必要がある。また、レポートの第一稿提出前に学生に評価表を提示したが、細かすぎてわかりにくいという意見が多数聞かれたため、改訂を検討していきたい。

金曜の授業では、ディスカッションに向けた活動を取り入れたが、分かりやすく説明するためのレトリックやメタ表現など技術的な側面の指導が十分でなく、学生にも授業活動の意図が十分に理解されていなかった。クラス間ディスカッションについては、学生からおおむね好評を得た。